

いのまた 晃

議会活動報告 第2号 令和4年4月発行

発行：いのまた晃後援会

事務所：自宅

花泉町油島字原田72

連絡先：0191-82-3059

080-6008-0693

eメール：inosanchi@mou.ne.jp



ごあいさつ

市役所では新たな職員体制の元、新年度の事業が始まりました。

議会では、2月から3月にかけて通常会議が開催され、令和4年度に向けた市長の施政方針が述べられました。また、代表質問や一般質問、予算審査特別委員会を設置して当初予算の審議が行われました。

なお、令和4年度の各会計の当初予算案を始めとした議案は、本会議において全て原案通り可決しました。

今号では、その質疑内容等をお知らせいたします。

■議会等における会議への出席状況（令和4年2月1日～4月10日）

市議会	議会定例会	(通常会議)	5日	(予算審査特別委員会)	5日	(臨時会議)	1日
	教育民生常任委員会		3日	広聴広報委員会			4日
	議員全員協議会		1日	NEC跡地等調査特別特別委員会			2日
	議員研修会	—		その他（行事出席等）			3日
広議域会	定例会		1日	臨時会		—	
	議員全員協議会		1日	研修会等			2日

■2月～3月の通常会議等における質問等について

通常会議では、一関市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、質問しました。

予算審査特別委員会では、全委員で行う総括質疑において5項目を質問し、また、教育民生分科会においては、福祉部、市民環境部、教育部等が所管する令和4年度当初予算等の審査を行いました。

質問内容と答弁の概要は以下のとおりです。

①一関市消防団員の定員、任免、服務等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質問①：消防団員の定数を、市全体で2,900人から2,500人に改正することについて、定数は何を根拠に定めるものなのか、基準等があれば伺う。

答弁：消防団員の定数については、各市町村において面積や地形、人口などそれぞれ異なる状況であることから、国などにおいて定数の根拠として明確に示されたものはなく、地域の実情や現状の消防団員数を考慮して定めている。なお、当市の消防団員の適正な定数については、市の人口に対する消防団員数の比率として昭和50年代から2%代で推移してきたことから、今後についてもこの割合を1つの目安としていきたいと考えている。

②予算審査特別委員会（総括質疑）－5項目の中から抜粋

質問①：ふるさと応援寄附金の収入見込み額とその充当先について

(1) 4年度の寄附金額を7億と見込んでいるが、前年度当初予算の3億と比較して、大幅増額とした要因を伺う。

答弁：返礼品を、令和2年度末の390品目から、今年2月現在で723品目に拡大したことによる選択肢の充実。また、寄附する際のインターネットのポータルサイトとして、ふるさとチョイスと楽天ふるさと納税の2つを設定し、返礼品の決済方法の見直しを行ったこと。さらに、ポータルサイト内での定期的なおすすめ、返礼品の紹介や、寄附者への月2回のメールマガジンの配信なども行っていることで、寄附額の大幅増を見込んでいる。

(2) 基金の活用額が6億8千万円ほどで、ふるさと応援寄附金の活用先として、寄附者が指定する事業区分が5区分あるが、その区分ごとの充当事業数と充当金額を伺う。

答弁：①歴史と自然を大切にする事業として、4事業に400万円。
②産業を元気にする事業として、4事業に9,800万円。
③子供と高齢者の笑顔が輝く事業として、16事業に3億5,730万円。
④スポーツと文化を育む事業として、7事業に3,840万円。
⑤その他市政の推進に資する事業として、7事業に1億8,400万円。
となり、合計38事業に、6億8,170万円を充当している。

(3) 充当した総事業数は38事業であるが、どの事業にどれくらい充当するかとの判断は、どのような考えに基づき行っているのか伺う。

答弁：ふるさと応援寄附が市民に還元されるような事業や、確実な予算執行が見込まれる事業を選定し、まちづくり推進部交流推進課と総務部財政課で調整を行い、事業の選定及び充当額を決めている。

質問②：ふるさと応援寄附金の効果と今後の取組方針について

(1) ふるさと応援寄附金の効果をどう捉えているのか伺う。

答弁：事業を実施する際に必要となる貴重な財源として活用できているほか、返礼品を調達するため、その事業者への経済効果も出ているものと捉えている。

(2) 市の特定課題の解決のために寄附をするクラウドファンディングの仕組みや、返礼品をソフト事業で返すなどの取り組みについて、今後の対応をどう考えているのか伺う。

答弁：多くの事業者や生産者に、返礼品の協力事業者となることのメリットを周知し、返礼品を拡充していくほか、市が抱える課題に対して、共感者から寄付を募るクラウドファンディング（N.S.Pメモリアルスポットの管理）を、本年2月から始めているところであり、引き続き当市の魅力を発信し、一関市のファンを増やすための取り組みを進めていきたい。

③予算審査特別委員会（教育民生分科会）における主な質疑

質問①：介護予防・生活支援サービス事業費の通所型サービスBが花泉地域で多く取り組まれている要因をどのように分析しているのか伺う。

答弁：住民主体で介護予防事業等を行う通所型サービスBの取組団体は、市内で15団体があり、内7団体が花泉地域にある。花泉地域に多い要因としては、介護予防センターがあり、活動の中で情報交換ができていること、また、生活支援コーディネーターによる地域への情報提供も要因と捉えている。

質問②：給食センターでは、魅力ある食事の工夫として、地元食材を積極的に使うとしているが、どの程度の使用割合となっているのか伺う。

答弁：令和2年度の実績では、穀類が81.7%、野菜等が28%、畜水産物が13.7%、乳製品が39.3%、飲用牛乳が100%となっており、合計で60.5%となっている。

所感：農業を基幹産業と位置づけ、夏秋野菜を多く生産している本市として、もう少し野菜等の使用割合を高めることはできないのかと感じている。センター方式になり、一度に使用する食材量が多いことから安定的な野菜等の提供を行う難しさはあると思うが、教育部と農林部の連携により、使用割合を上げていく取組について意見していきたい。

質問③：一関図書館では電子書籍というサービスを令和2年12月から提供しているが、この利用実態を伺う。

答弁：令和4年1月末時点の登録者数は656人で、利用件数は1,538件となっている。利用いただける書籍は現在1,519点であり、利用形態としては、図書館への来館が難しい方や、紙の本の活字を視覚で追うことが難しい方々の利用が想定される。利用書籍の傾向としては、小説が最も多く、次いで料理やビジネス関連が多いが、今後は利用動向を見ながら書籍の充実を図るとともに、多くの方々に利用いただけるようPRに努めていきたいと考えている。



栗駒山へ登ってきました

今後の議会審議事項として、NEC跡地を含めた一ノ関駅周辺の整備のあり方、一般廃棄物最終処分場整備基本計画に基づく候補地の選定が大きなテーマとなっており、市議会内に設置した特別委員会や広域行政組合の全員協議会の中で調査研究し、今後の方向性を見出ししていくことになりますので、随時報告させていただきます。

今後も定期的に情報発信して参りますので、皆様のご意見等をお寄せください。また、後援会のホームページ等で、日々の活動を掲載しておりますので、こちらもご覧ください。

ホームページアドレス

<https://inomata-akira.com/>



facebook：いのまた晃後援会

